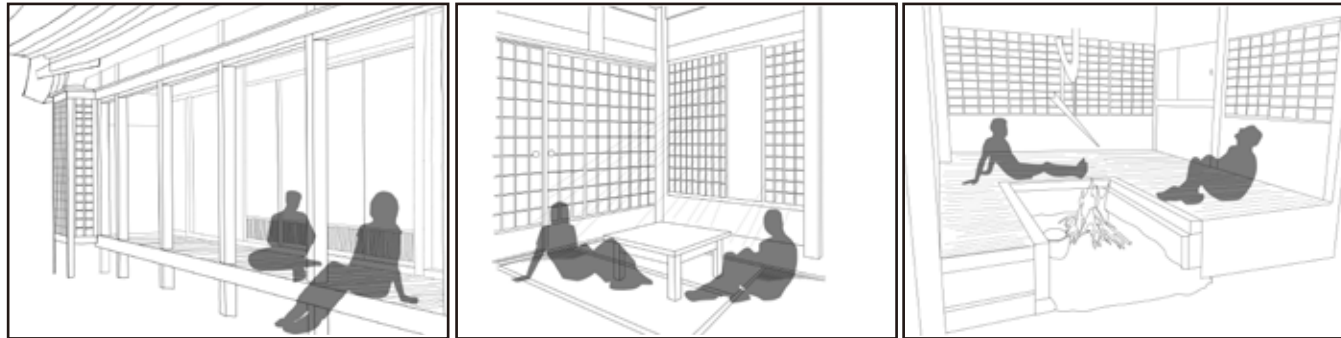


02 建具の操作、外界との関係

かつて人々は、自らの手で建具を操作し外界との距離を調節していた。
戸を開け放って縁側で風を感じたり、障子から差し込んでくるやわらかな光に温められたり、寒い冬はあらゆる戸を閉め切って、家族みんなで囲炉裏で暖を取っていたこともあっただろう。
その主体的な境界との関係に絶えず変化する時の移ろいを知覚させられ、私はそこに和を見出した。



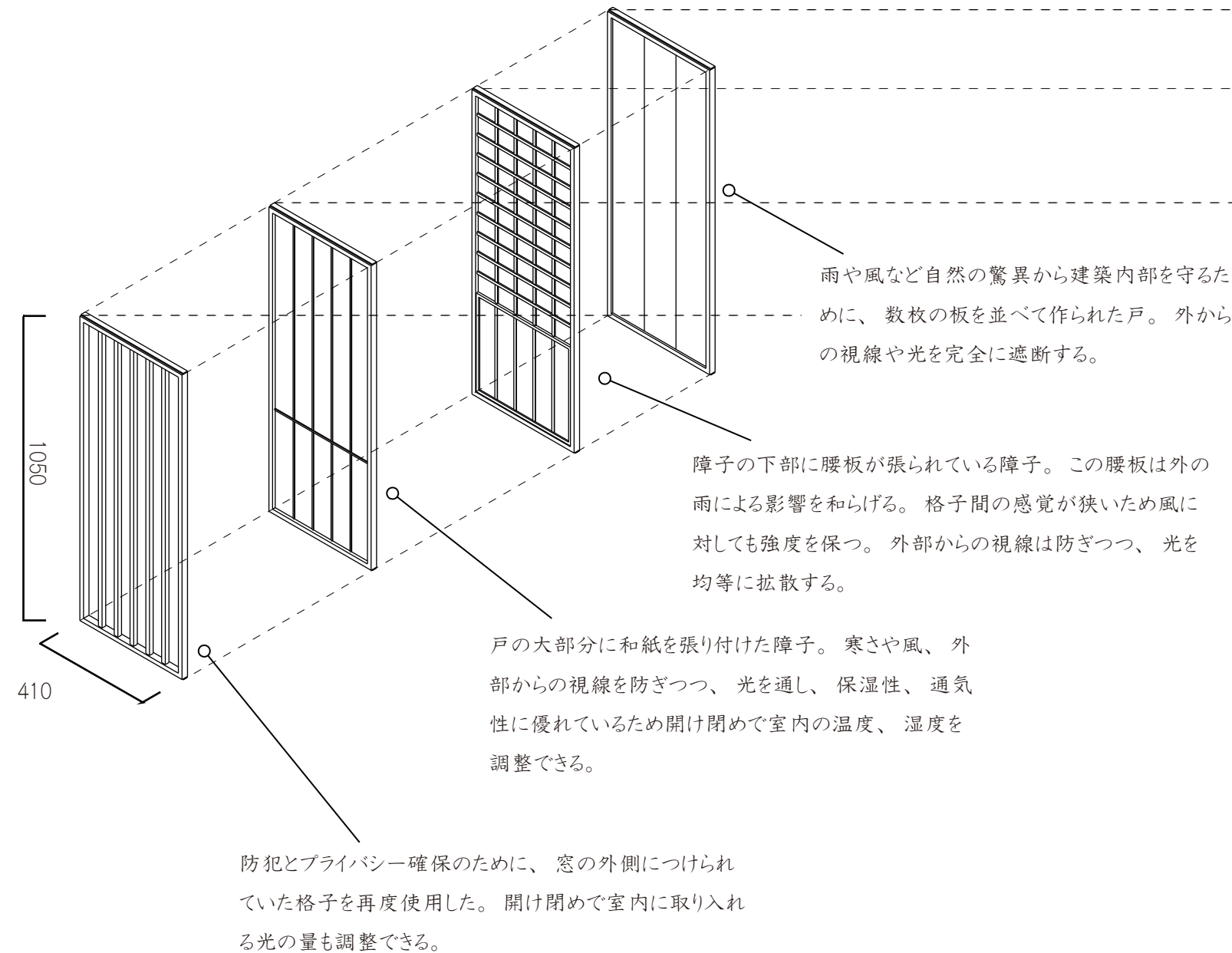
雨戸を開け、縁側に座る

障子に差し込む日光に温まる

すべての建具を閉め、囲炉裏を囲む

05 潮汐庵

「奥行き満ち引き」を手法として現代における新たな建具を提案する。この建具は、従来の平面的な境界に奥行きを与え、さらにレイヤーを加える。これにより、人々が環境に合わせて過ごし方を選択していく中で、時の移ろいをより鮮明に知覚することを期待する。



03 現代の建具

現代では、断熱・遮熱性能を持つ壁面やガラス、また空調設備の発達により、暑さの厳しい夏でも、寒さの厳しい冬でもどこにしようと快適に過ごすことができる。
しかし、これは内外の境界から離れ、今までの時の流れを忘却することにつながりかねないだろうか。



04 対象敷地

建具を挿入する場所として、東京都人形町に建つ「やきとん筑前屋」を選定する。当店は古民家を飲食店に改修した木造建築物であるものの窓に格子が固定され、外には室外機や物置きとして使われている。

